

## 令和5年度学校運営自己評価結果・学校関係者評価委員意見および今後の課題

評価尺度:5 よい 4 ややよい 3 普通 2 やや不十分 1 不十分

### ①学校経営【平均4.0】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>教員は、組織ミッション、組織目標を意識して任務を遂行した。ミッション等に加え、前年度評定や引継ぎ内容を踏まえ、年度当初に業務目標を設定し具体的取組を考えた。年間をとおして自己評価（上期・下期・総括）に取り組んだ。</p> <p>今まで、強化して取り組む課題にむけた単年度目標を設定していなかったが、年度末の教務会議で次年度の目標について検討した。GIGAスクール構想に基づく教育を履修した生徒の入学を控え、専任教員のICT活用力の育成が課題であることを共通認識できた。</p> <p>学生による授業評価や学校評価、教員による学校運営自己評価に取り組み、学校関係者評価委員の意見、今後の課題と取り組みとともにホームページで公表した。</p> <p>学校評価で出された学生の意見・要望については、教員間で共有し改善・対応策を協議した。改善策だけでなく、学校の状況や考え、意図を書面をもって学生に提示した。</p> <p>令和5年度は新カリキュラム移行2年目であった。新カリキュラム分科会で検討したシミュレーションモデル（臨床看護総論Ⅱ）やアクティブラーニング方法（病態治療学演習）、ルーブリック評価を授業で実践した他、新しく設定した地域・在宅看護論実習Ⅰを展開した。演習時の学生の様子や実際のシミュレーション、学習の成果物から学習効果がうかがえた。</p> <p>教員一人一人が判断力・意思決定力を養う等、「めざしたい将来像」を年度当初に副校長が掲げた。また、教務会議や定時情報共有において、あらゆる教授活動に関する検討や意見交換、学生状況の共有、学校運営に関する情報伝達はできている。</p>	<p>教員が一丸となって課題に取り組めるよう単年度の目標を明確に定めることはよいことである。 令和6年度からもミッション・組織目標をふまえた単年度の目標を検討し策定、9月末に中間評価を行う。</p> <p>教員各々が、担当業務を遂行しながら経験年数や職位に応じた力をつけていけるよう努力する。それが質の高い学校経営に繋がっていく。</p> <p>教員のICT活用への動機づけ、知識と技術習得にむけ、研修を企画する他、組織全体で目標を設定し取り組んでいく。</p> <p>新カリキュラム移行に伴い、さらなる授業展開の工夫、教育内容の充実を図り、特色ある学校づくりに努めていただきたい。 令和6年度は新カリキュラム移行最終年となる。3年次の新科目「社会福祉Ⅱ」「看護の統合と実践」の実践にむけ準備し、教育内容の充実を図っていく。</p> <p>運用したカリキュラムの評価が必要である。</p>

### ②教育課程・教育活動【平均3.8】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>学生の学修成果目標となる『卒業生の特性』を履修概要に示しているが、卒業の認定・専門士称号授与の方針として表現されていない。卒業時の到達状況の分析も十分でなく、現在、社会人基礎力に基づいた学生自己評価ツールを検討中である。</p> <p>臨床判断や対象・療養の場の多様化に対応できる基礎的能力の育成をめざし、新しく設定した科目を実施した。専任教員間の協働、実務経験のある専門職への講義依頼、地域で生活している人々を支援している場を実習施設として開拓等、学習環境を整えた。</p> <p>新しい教育課程の実施にむけては、専任教員で構成するカリキュラム検討分科会や全体会で検討して進めた。</p> <p>シラバス（授業計画書）は、毎年見直しているが、令和5年度は『先輩学生からのメッセージ』の充実を図った。ホームページでも公表している。</p> <p>授業担当者が5人以上で担当者間の連携が取れていない科目もあるが、実務経験のある講師・事業所に講義依頼していることが大きな要因である。科目のめあてや教育内容について依頼する学校側が整理し、交渉時に説明、協議できており、授業の一貫性は損なわれていないと考える。</p>	<p>自己評価にあるよう努力を継続し、看護の精神を身につけ大きくしていける人材を育成してください。 学生に寄り添った教育活動が実践できていると思うので、より一層学生の意欲を刺激する教育をしてください。 卒業生の特性の到達状況の分析や社会人基礎力についても卒業生像として示すと職場への適応につながりやすい。</p> <p>新カリキュラム編成および実施の方針とあわせて、本校の教育理念や教育目標に基づき、どのような力を身につけた学生に卒業を認定し、専門士称号を授与するのかを定める基本的な方針を整理する。 また、卒業直前に学校が設定した「卒業生の特性」について、その達成度をふりかえる時間をつくる。卒業生自身が自己評価し、在学期間をとおして成長できたところや今後の課題を明確にし、次のステージに向かう心構えを意識してもらう。</p> <p>令和6年度は新カリキュラム移行最終年となり、学生の自己評価だけでなく、教員による3年間のふりかえりや効果検証が必要である。</p> <p>外部講師複数人で担当している科目については、引き続き学校側が教育内容を整理、講師へ説明し協議していく。</p> <p>効果的な授業運営（内容の検討や方法の工夫）については、従来どおり取り組んでいく。授業研究については、今後は実施していきたい。</p>

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み								
<p>外部講師のスケジュール、臨地実習ローテーション、看護実習室の使用等の様々な要因で学習の順序性を考慮した時間割を作成するのは難しいが、専任教員間での連携・情報共有が一層図られるようになった。</p> <p>学生が早く知りたい認定試験や行事の日程については廊下のホワイトボードを活用し情報提供できている。</p> <p>新科目については分科会メンバーが協働して、シミュレーションモデルやアクティブラーニング方法の検討を進め、全体会で意見交換し授業実施に至った。また、専任教員それぞれが、年間のふりかえりに基づき、授業改善に繋がった。</p> <p>学生個々の状況を分析、専任教員間で情報共有・意見交換しながら学生対応に努めた。学生、保護者の気持ちや認識をよく聴き、要因、今後の方向性について話し合う機会をつくった。学校は説明責任を果たすと同時に必要な情報を提供した。</p> <p>令和5年度は、新規実習施設（地域・在宅看護論実習Ⅰ）すべてにうかがい、科目設定までの経緯、目標、実習内容等学校の意図や思いについて説明し協力を依頼した。実習施設の担当者は、実習目標が達成できるよう見学・経験内容を検討、学生受け入れ体制を整えてくださった。</p> <p>単位認定の方法や評価基準について毎年見直している。履修概要・実習要項に掲載している他、開講時や実習オリエンテーション時に学生に説明している。</p> <p>年度末に自分の教授活動をふりかえることが定着し、専任教員それぞれが授業改善に取り組み、学生の授業評価結果に繋がっている。</p>	<p>学生対応は組織で検討・協議して方向づけを行い、従来どおり責任を果たし誠実に対応していく。</p> <p>今年度、成人・老年看護学実習Ⅲの実習病棟の選択について課題が残った。令和7年度にむけ実習施設と協議し、実習内容の経験、実習目標が達成できる学習効果のある臨地を設定する。現在、学生に提供している教育の質を落とすことなく、専任教員一同努力を継続する。</p> <p>良質な教育には、学生との信頼関係構築が基盤となるため、学生対応にも留意しながら教授活動を展開していきたい。</p> <p>病院実習については、実習前・実習後に会議を設け、学生の学びや課題、次年度にむけての修正点等を協議している。実習中に生じた問題点は、会議の場で共有し解決への方策を考えている。学生による授業評価から実習指導の質は良好であると評価できる。</p> <p>【学生による授業評価および学校評価結果】（5段階評定）</p> <table border="1" data-bbox="970 835 1244 1019"> <tr> <td>講義</td> <td>4.6</td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td>4.6</td> </tr> <tr> <td>実習</td> <td>4.7</td> </tr> <tr> <td>学校評価</td> <td>4.6</td> </tr> </table>	講義	4.6	演習	4.6	実習	4.7	学校評価	4.6
講義	4.6								
演習	4.6								
実習	4.7								
学校評価	4.6								

### ③入学・卒業対策【平均3.5】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み																																
<p>令和5年度入学生は40名で定員充足率100%という目標は達成できたが受験者数は減少した。県東部地区の高等学校に出向き、進路担当教員と懇談し、本校の特徴や入学生の様子を伝えた。</p> <p>国家試験対策について令和5年度は新たに教員による領域別対策を追加した。実施後アンケートでは、「理解が深まった」「配布資料が活用できる」等肯定的意見が寄せられ好評だった。全ての臨地実習が終了し、学生の学習スパートがかかる12月というタイミングで予定を組み、効果を上げた。模試の成績にあわせ、学習方法の助言や弱点を強化するよう模試の解きなおし等の課題を提示した。</p> <p>県内医療機関の採用情報については、図書室の就職コーナーに配架するだけでなく、校内に掲示し3年以上の学年にも情報提供している。卒業生県内就職率は96.9%（前年度81%）だった。</p> <p>【県内高等学校への学校訪問実績】17校（うち中部6校懇談なし）</p> <p>【WEBオープンキャンパス参加者数】 R3：67人 R4：81人 R5：36人 R5 学校見学参加者：25人</p> <p>【受験者数・入学者数の年次推移】</p> <table border="1" data-bbox="587 1917 893 2101"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>受験者数</th> <th>入学者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>81</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>82</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>63</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	年度	受験者数	入学者数	R3	81	39	R4	82	41	R5	63	40	<p>少子化の中で学生確保は必須の課題と考える。県内に限定せず、オープンキャンパスの受け入れを積極的に行ってほしい。</p> <p>生徒、保護者の大学志向が強くなっており、専門学校を選択する生徒の増加を見込むことが難しい面もあるが、業者開催の進学ガイダンスに参加し、学校の認知度を上げていく。また、県中西部地区の高等学校へのPRに取り組む。</p> <p>対面でのオープンキャンパス再開、行事等の取材によるメディアへの露出増加を図る。</p> <p>従来の国家試験対策を継続、低学年から学習への動機づけを図る。スマートフォンで容易に国家試験過去問題にアクセスできるWEBシステムを契約し活用していく。</p> <p>【看護師国家試験合格率の年次推移】</p> <table border="1" data-bbox="928 1917 1474 2101"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> <th>合格率</th> <th>全国合格率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R3</td> <td>40</td> <td>39</td> <td>97.5</td> <td>91.3</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>33</td> <td>33</td> <td>100</td> <td>90.8</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>40</td> <td>37</td> <td>92.5</td> <td>87.8</td> </tr> </tbody> </table>	年度	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率	R3	40	39	97.5	91.3	R4	33	33	100	90.8	R5	40	37	92.5	87.8
年度	受験者数	入学者数																															
R3	81	39																															
R4	82	41																															
R5	63	40																															
年度	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率																													
R3	40	39	97.5	91.3																													
R4	33	33	100	90.8																													
R5	40	37	92.5	87.8																													

#### ④学生生活への支援【平均3.7】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>学年ガイダンス担当教員が、定期面談、心理面での支援、学習への助言等の役割を果たし単位修得が進んだ。学生や保護者の悩みや思いを聴きとりながらきめ細やかに支援し、必要に応じてスクールカウンセラーの利用に繋がった。</p> <p>休学者が健康診断を受けることができるよう復学日にあわせ日程調整した。</p> <p>2週間に1回就労継続支援事業所によるパンの移動販売を依頼、また、飲料の自動販売機設置の契約も継続した。</p> <p>7月の保護者会（出席者38名、うち個人懇談希望者9名）で学校生活や学習の様子を保護者に伝えた。保護者からは、天候不良時の学校対応や実習中の昼食時間の確保について意見が出された。</p> <p>退職や就業場所を変えた卒業生がいたが、継続して支援が必要なケースはなかった。卒業生が相談できる場所として学校を認知しているのか、選択してくれているのか曖昧である。</p>	<p>すべての学年において学生評価が前年度より高くなっており、教員がしっかり学生支援されているのがうかがえる。</p> <p>卒業後、臨床で実際に働くと悩むことも多く、卒後1～2年は継続したサポートがあるとよい（卒業生の支援窓口の整備）。また、そのことを卒業前に周知してほしい。</p> <p>今後も学生の状況を判断しながら、従来どおりの支援を継続していく。学生本人の思いを大切にしながら保護者と連携し、支援の方向性については組織で協議し最善の対応が図れるよう尽力する。</p> <p>大雨、大雪時の休校や時間割変更については、早く決断し速やかにマチコミアプリで周知する。また、遅刻時は当時の状況を学生に聞き取る他、対応を教員間で統一する。</p> <p>明るく楽しい学校生活が遅れるようサークル活動への支援に注力されてはどうか。 今後は、学生サークル活動の活動状況もホームページにアップしていきたい。</p>

#### ⑤管理運営・財政【平均4.0】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>当初予算要求内訳に沿って計画的に予算執行した。電気料金や物価の値上がりもあり、1月以降標準事務費内の流用を複数回行ったが、予算内で運営できた。</p> <p>備品購入については整備計画に基づき、医療介護総合確保基金を活用した。</p> <p>返却済み実習記録は教務室内の鍵付きロッカーに保管しているが、令和5年度は返却された実習記録を綴じていない学生が複数名発生した。再三、指導するとともに、記録の綴じ方・保管を学生個人別から実習科目ごとに変更し教員もチェックしやすいよう改善した。</p> <p>鳥取看護専門学校消防計画を更新、消防計画変更届書を鳥取消防署に申請した。</p> <p>自転車乗車時のヘルメット着用について、ホームルームや掲示板で呼びかけているが、着用率100%に至っていない。</p> <p>冷房の温度設定や長期休暇中のトイレ電源オフ等、節電に努力した。節電を呼びかける掲示を行い学生にも協力を依頼した。連絡や技術試験オリエンテーション等で休憩時間がなくなってしまうという声が学生からあがった。1・2年生については週1回ホームルームの時間を確保し、その時間に学生への連絡等を行うように改善した。</p>	<p>物価や電気料金が値上がりしている中でも計画的に財務運営されている。教員の研修費の予算がかけれるとより良いと考える。</p> <p>新カリキュラムとなり実習施設数が増加したこと、県外での学会や研修等に積極的に参加できるよう普通旅費を増額する。</p> <p>備品購入については、今後も基金を活用していく。</p> <p>実習施設で学生がタブレットを使用（電子テキスト閲覧）するにあたり、カメラ機能使用やネット接続の禁止等について個人情報保護のガイドラインに追加していく。</p>

### ⑥施設設備【平均3.4】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>施設維持のために部分改修を計画している。今後も隣接する養護学校と連携していきたい。</p> <p>令和5年度実施：(改修)屋上防水改修工事、(修繕)空調設備サーモスタ等部品交換、(修繕)沐浴槽シンク・アンクル止水栓漏水修理</p> <p>教材整備計画に基づき、令和5年度はネットワーク接続ストレージ(情報科学室)、ワイヤレスアンプ・マイク、術後ケアスーツを更新した。また、教員用タブレットの整備も進めた。</p> <p>令和5年度もシミュレーション室を有効活用できなかつた。新型コロナウイルス感染症防止のため分散して昼食を摂取していたためである。施設が狭く、本来の使用目的以外での使用だった。</p> <p>施設面積が限られている中、デッドスペースを活用し長机と椅子を設置した。学生はそこで昼食を摂り休憩している。</p> <p>令和5年度も新刊図書・雑誌を購入した。学生にわかりやすいよう購入した図書等は決まった箇所に配架している。学生は看護学実習時によく活用している。</p> <p>蔵書図書：5404冊、雑誌：21種類(年度末時点)</p> <p>看護実習室についてはやや狭く、学生数の変化を鑑みながらベッド数を調整していく必要がある。</p>	<p>計画的に部分改修、修繕を行い施設設備の管理はできている。また、カリキュラムに合わせた教材整備等、教育環境も整備されている。</p> <p>築49年になる校舎については、中長期の営繕計画に基づき改修等を進めていく。</p> <p>令和6年度：外壁・建具改修工事 令和7年度：建具改修工事・空調設備更新工事</p> <p>今後も本施設で学校運営していく予定であり、増築・大きな改修等は難しい状況であるが、安全で学習しやすい環境を学生に提供できるよう努力していく。</p> <p>今後も教材備品、図書、実習室等の整備を継続していく。</p> <p>コロナ感染防止のため、シミュレーション室を食事摂取場所として利用していたが、今後はシミュレーション室として整備し学生の学習支援・利便性をあげていく。</p>

### ⑦教職員の育成【平均2.4】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>社会人基礎力の育て方に関する教員研修や職場内人権研修、不当要求防止研修を実施した。</p> <p>他県の看護学校及び教員のアカデミックハラスメントの告発が相次いだことから、その新聞記事を活用し、ハラスメントになりかねない教員対応や状況、学生を大切にすることについてグループワークを行い、教員ひとりひとりが自身をふりかえる機会となった。不当要求防止については、保護者からのクレームの電話での初期対応について学習した。</p> <p>職員人材開発センターが実施する能力開発・向上研修と学会またはセミナーを各自1回受講した。</p> <p>臨床看護研修と授業研究の実施はしていない。</p>	<p>「教職員の育成」の自己評価が極端に低く、人材育成の難しさがうかがえるが、実際は教員各々がとても努力されている。自己評価がなぜ低いのか分析し、教員のニーズに合わせた研修計画を立てる必要がある。教職員が生き活きと看護師の仕事の素晴らしさを学生に伝えていただきたい。</p> <p>新任教員の育成については、人材育成担当教員を配置し計画・戦略的に取り組んでいく。授業案の確認や実習指導、その他様々な校務については、実務をしながら必要な知識や技術を指導していく。</p> <p>令和7年度は、教員のニーズを把握し臨床看護研修の希望を募りたい。また、授業研究が年1回実施できるよう年間スケジュールに組み入れていきたい。</p>

### ⑧広報・地域活動【平均3.5】

自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見および今後の課題と取り組み
<p>本校の主な広報活動は、パンフレット配布やオープンキャンパス開催、高等学校への訪問である。令和5年度はコロナ禍の制限がなくなり、予定どおり広報活動できた。夏休み期間中には学校見学会を複数回開催した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が一般医療に移行し、様々な活動の制限が緩和されたが、令和5年度は専任教員の地域への貢献・ボランティア参加は少なかった。</p> <p>1年生は地域のボランティア活動に参加した。</p> <p>看護職能団体が開催する鳥取県の委託事業である実習指導者講習会に講師として協力した。</p>	<p>オープンキャンパスや学校見学会等、広報活動に努めているが、今後は進学ガイダンス等外部で開催される広報イベントにも出向き、学校の魅力を発信していく。</p> <p>ホームページの更新はされているが、もう少し高校生が見やすいよう工夫が必要である。インスタグラム等のSNSによる動画発信等を取り入れると高校生に気軽に見てもらえるだろう。</p> <p>少子化で18歳人口が減少してる中、看護師の確保も困難になっている。まずは、若い世代に看護職を選択してもらえるよう職能団体と連携し、看護の魅力をもPRするイベント等にも参加していきたい。また、学生だけでなく、専任教員の地域ボランティアを増やしたい。</p> <p>学校行事の報道機関への情報提供、取材協力にも力を入れたい。</p>